

第4回西播磨認知症ケア実践研修

特定非営利活動法人 播磨オレンジパートナー
〒679-4165 兵庫県たつの市龍野町本町4 7 番地

助成事業の概要

1. 実施目的

本事業は、都市部を中心に行われる認知症ケアの研修に参加する機会の少ない、「西播磨在住・在勤で、経験の浅い介護職員」に研修を提供し、受講者が「認知症」を深く理解するとともに、認知症を有する利用者への実践的なケアの方法を学び、介護現場の認知症ケアの質、並びに職業意識を向上させていくことを目的とする。今年度は、「認知症 × 芸術活動」をテーマにプログラムを構成した。

2. 実施時期と内容

○9月29日(日)

臨床美術の魅力と実践

中谷真理氏(社会福祉法人円勝会)

○11月16日(土)

参加したくなる音楽レクのコツ

細江弥生氏(兵庫県立リハビリテーション西播磨病院)

○12月15日(日)

臨床美術で脳活ART～意欲を引き出す芸術レクリエーション～

荒牧裕子氏(医療法人松原会 ピアサポートのと)

○1月18日(土)

認知症の人と楽しむスキンシップと車椅子ダンス
尾渡順子氏(医療法人中村会 介護老人保健施設あさひな)

2月～3月 報告書作成、参加者および介護事業所等へ送付

事業の成果

(1) 「認知症ケア」の理解

1. 中谷真理氏の講義では、「臨床美術」についてその成り立ちや目指す内容について教えていただいた。介護現場での創作活動について、その内容が、幼稚すぎたり、利用者が苦手意識を持っていたりすることがあるが、臨床美術は、五感を刺激し、芸術的なセンスの有無に関係なく、満足できる作品が作れるということが体験できた。

2. 細江弥生氏の講義では、音楽療法で使われているプログラムの組み立て方や身体機能の向上につながるテクニックなどを教えていただき、単なる「歌うだけ」のレクリエーションではない音楽レクについて学ぶことができた。

3. 荒牧裕子氏の講義は、中谷真理氏の講座を踏まえ、さらに「臨床美術」の効果を教えていただいた。ワークショップでは、作り方や仕上がりが想像できない作品づくりを提供していただき、利用者がワクワクすることで脳が活性化する創作活動について学ぶことができた。

4. 尾渡順子氏の講義は、認知症に関する最新の研究についてご紹介いただくとともに、車椅子に乗ったままで踊れるフォークダンスの指導があった。身体機能が低下し、車椅子生活を余儀なくされる利用者は、とかく誰かのパフォーマンスを鑑賞する側になることが多いが、楽しくダンスに参加することができることに気付かされた。

(2) 自己研鑽への意欲向上・仲間づくり

毎年、本研修を楽しみに参加してくださる方、そ

して、学びの場を求めて新しく参加してくださる方が、ワークショップを通じて、親しくなり、自分の思いや仕事について活発に情報交換することができ、職場を超えた仲間づくりができた。また、今後の学習についても楽しみにしてくださっている。

■ 成果の広報、公表

各講座については、その都度、法人の Facebook ページでその様子を写真とともにお伝えした。

また、成果物として「報告書」を作成した。報告書には、各講師の当日の配布資料の中から、最も重要な部分と思われるものを抜粋し、講師の写真を掲載するとともに、受講者の各講座に対する感想も掲載し、参加されなかった方々にも講座の内容を知っていただき、参考にさせていただけるよう工夫した。

報告書は今回の受講生と講師に郵送するとともに、西播磨（7市町）圏域並びに姫路市の介護関係機関、介護事業所、そして過去の受講生、講師などにお送りさせていただいた。

■ 今後の展開

今回で 4 回目となる西播磨認知症ケア実践研修は、毎年 8 市町の介護保険事業所（約 250～300 事業所）に案内させていただくとともに、年度末にはその報告書をお届けしている、しかしながら参加者が増えていかないのが実情である。

お招きする講師は、都市部では何十名、時には 100 名を超える講座を開かれる方や著書も著されている方等であり、受講料の設定も都市部に比べると安価なので、プログラム自体に原因はないと考えるが、介護事業所の職員不足などの理由でなかなか受講に至らないのではないかと分析している。

一方で、過去 4 回の参加者は、この研修を高く評価していただき、リピーターが増えている現実もある。

そこで来年度からは、人材育成事業の立て直しをはかり、まずはこの研修を通じて出会った介護職員らとともに小さな自主勉強会を始め、学びの輪が広がっていくように取り組んでいく予定である。